

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

67

2022

激闘の2年間 ―新型コロナウイルス感染症の記録―

DOCTOR'S VOICE 01 愛媛県の医療とスタッフを守る、迅速な準備と感染対策
重症患者治療を支えるハードとソフトの強化、そして連携
患者さんと職員を守るための感染対策を目指して

DOCTOR'S VOICE 02 愛媛県全体の問題として、当院に与えられた使命を全うする



仕事始め式

令和4年 初春

愛媛県の医療とスタッフを守る、迅速な準備と感染対策

COVID-19は2019年末に発生した新型呼吸器感染症です。県内最初の患者さんは附属病院で治療してほしいという愛媛県からの依頼もあり、2020年始めに対策本部を設置しました。当初は資材不足の中で、職員や学生を感染から守るための教育と、診断や感染対策のシステム構築に力を入れました。治療に関しては重症患者さんに対して、救急科、感染症内科と呼吸器内科を主としてそれを病院全体でサポートをする体制で人工呼吸器やECMOを使用する高度な治療を担当しています。2022年1月までに累計57名の重症患者さんを受け入れています。感染対策は基本の手技を正しく継続する地道な作業です。今後も愛媛県を守る安全・安心な医療の提供を行ってまいります。

PROFILE

たうちひさみち◎1989年愛媛大学医学部卒業。1999年より当院にて勤務。専門は小児科・感染症。日本血液学会専門医・指導医、日本感染症学会感染症専門医・指導医。2011年より現職。趣味はネコ。



重症患者治療を支えるハードとソフトの強化、そして連携



重症患者さんの治療はウイルスの排除と炎症が収まる間の呼吸を中心とした全身管理で、ICU（集中治療室）で人工呼吸器やECMOなどを用いて診療します。第1波終息後、今後の感染拡大や重症患者数の増加に備えて、既存の陰圧個室3床に加え、ICU9床を陰圧個室に変更工事をしました。患者数が増えた第3波以降は看護部、多くの診療科医師、多職種スタッフの協力により乗り越えることができました。手術の一部制限なども行い、愛媛県の重症患者さんを救うためにCOVIDチームとして協力してくれた多くの人たちのおかげです。今後も重症患者さん一人ひとりの診療を大切に続けることと、愛媛県内での更なる連携強化に取り組んでいきます。

PROFILE

さとうのりお◎1995年愛媛大学医学部卒業。2019年から現職、2020年12月からは病院長補佐（災害担当）。専門は救急医学・集中治療。趣味は若者への無償の愛（継続中）。

患者さんと職員を守るための感染対策を目指して

新型コロナウイルス感染症患者が報告されて以降、様々な学会から出される情報をもとに、感染対策マニュアルを作成しました。日々現場に出向き、職員とともに良い感染対策を考え、実践に繋げています。今後は、感染症の有無に関わらず行う標準予防策をさらに強化することが大切です。その中でも、手指衛生の徹底やサージカルマスクの適切な装着などは、患者さん及び自分の身を守るために大切な感染対策です。すべての職員が徹底して行うための体制づくりを目指します。

PROFILE

あおのはるか◎2002年吉備国際大学保健科学部（現：保健医療福祉学部）看護学科卒業。同年より当院にて勤務。手術室および集中治療室を経て2015年12月から現職。趣味はスポーツ鑑賞。



● 対策・治療におけるポジション・役割は？

末盛／感染症内科として抗ウイルス薬（ファビピラビルやレムデシビルなど）の導入および使用、そしてコロナの検査を担当し、またコロナ病棟であるICU2の感染対策にも従事しました。

濱口／私たち呼吸器内科、感染症内科と救急科の先生方で情報共有し、院内の治療方針を考え決定しています。

竹森／私は看護師長という立場で様々なチームをICU2内で繋ぐ役割でした。最初は、37名の看護師でしたが、コロナ対応病棟には部署を越えての応援があり、最大53名の看護チームとなりました。

● 対策・診療における大学病院ならではの特徴は？

濱口／ウイルス感染には抗ウイルス薬を使い、ステロイド治療はしないという世界的スタンダードがありました。しかし、当初からCTでは間質性肺炎の所見があり、炎症を抑える薬の使用が不可欠でした。

末盛／第1波時のWHO暫定ガイドラインではステロイドの使用は否定的でした。しかし、濱口先生のご専門である間質性肺炎からARDS（急性呼吸不全）で致死的となる症例もあり、私も感染症・膠原病の診療経験から、ステロイドが必要という共通認識がありました。

濱口／特に重症の方は急性肺炎が進んでいることからステロイドパルス治療という、数日間のステロイド点滴を行う治療も取り入れました。当院の重症患者さんの救命率が約8割5分～9割。この判断でよかったと思います。

末盛／24時間体制の救急部の先生方の熱心な全身管理と看護師の方々のケアも非常に大きかったと思います。

● 看護部の対策や治療についての状況は？

竹森／最初は未知のウイルスに誰もが不安を抱きました。「COVIDチームだよ」という先生方の声掛けや、事務方も含めた病院全体からの支援で、使命感をもって看護ができました。一つ一つをポジティブなやりがいとして捉えながら取り組みました。また、不安やストレスを都度現場で解消し、素直に「しんどい」と伝えられる雰囲気となるよう、チームで支え合いました。

濱口／コロナ前のICU運営と全く違って相当不慣れな中、私たちがやらないといけないという心意気でされているのが印象的でした。

竹森／丁寧な面接や声かけで不安を拾い上げ、機器購入による負担軽減や細やかなシフト調整も積極的に行いました。患者さんが回復し、元気に退院される時が最も充実感を感じます。

● 今後の対応については？

濱口／仮にインフルエンザの症状に近くなっていくとすると、二次感染としての細菌感染症の可能性や既往症がある方の増悪（より悪化すること）になる可能性も踏まえて、対応を行います。

竹森／基本に忠実な対応を心がけ、大事な時に力が発揮できるように、今できることを落ち着いて行います。これまでの経験と、知識を活かした備えがあるので、私たちならできる、と皆にも伝えていきます。

末盛／呼吸器内科と救急部と引き続き連携し、ウイルス変異による病態の変化に合わせて対応します。コロナは愛媛県全体の問題でもあり、私達が重症コロナ患者さんに対応することで県内の一般医療維持の両立に貢献できれば幸いです。



PROFILE

すえもりこういちろう◎2002年愛媛大学医学部卒業後、血液・免疫・感染症内科学（第一内科）入局。2021年5月から現職。専門は感染症・感染制御、膠原病。日本感染症学会専門医・指導医、インフェクションコントロールドクター、日本リウマチ学会専門医・指導医。



PROFILE

はまぐちなおひこ◎2001年愛媛大学医学部卒業。愛媛県内外の病院での研鑽を経て2017年4月から現職。専門は呼吸器疾患全般。日本呼吸器学会専門医・指導医、日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医。趣味はソフトテニス。



PROFILE

たけもりかおり◎1993年新見女子短期大学（現：新見公立大学）卒業。同年から当院勤務。2006年救急看護認定看護師資格取得、翌年DMAT隊員研修修了。ICU、整形外科、ICU2/HCU、肝胆脾移植乳腺外科を経て、2015年4月から現職。趣味はイヌ。

TOPICS



看護師特定行為研修開講式を開催

令和3年10月1日(金)、看護師特定行為研修開講式を開催しました。この研修は、高度急性期医療および地域医療の現場で医療安全に配慮しながら特定行為を実施し、チーム医療の中心を担う看護師の育成を目的としており、当院は、愛媛県初の指定研修機関として、昨年度より研修を開始しました。今年度は当院看護師2名を受講生として迎え、開講式では萬家俊博副院長と久保幸看護部長から、受講生に対して激励のメッセージがありました。当院は、今後も愛媛県内の医療に貢献する医療従事者の育成に努めて参ります。



附属病院正面をライトアップ

- 世界患者安全の日(9/17): オレンジ色
- 臓器移植医療キャンペーン
「グリーンリボンデー」(10/16): 緑色
- 世界糖尿病デー(11/14): 青色



白衣授与式を実施

令和3年11月18日(木)、医学部創立40周年記念講堂で、医学科4年生113人を対象とした白衣授与式を実施しました。白衣授与式では、病床実習の資格を得た医学生が、医師を志す者としての自覚を再認識するとともに、これからStudent Doctorとして、病床実習に臨み、実習を通じてチーム医療の重要性等を学びながら将来の医療を担う人材となることを期待して、平成23年度から実施しています。11人の教授が学生一人一人に白衣を羽織らせ、実習に臨むにあたって学生への激励を行いました。



「愛顔(えがお)応援プロジェクト」より食事の提供

JA共済連愛媛様より、「愛顔応援プロジェクト」にて、当院医療従事者に向けて温かい食べものを食べてほしいと、キッチンカーにて種類に富んだグルメ約400食の提供等、ご支援いただきました。このプロジェクトは、新型コロナウイルス対策に尽力する医療従事者への応援や感謝の気持ちを伝えようと愛媛県の協力のもと実施されているもので、キッチンカーによる食事の提供の他にも、ゼリーやお茶などの寄付、また県内の幼稚園生が描いた手形アートを寄贈いただきました。



今月の1枚



JA共済連愛媛様より、医療従事者への応援や感謝を込めた手形アートを寄贈いただきました。

#愛顔応援プロジェクト

#愛媛大学教育学部附属幼稚園



編集後記

新型コロナウイルス感染拡大より2年が経過したのを契機に、新型コロナウイルスに関する特集号を作成しました。当院では県内の重症患者さんを引き受け、愛大チームとして診療して参りました。その中心としてご尽力いただいておりますスタッフの声をお届けします。当院医療従事者へ向けて、様々な応援や支援をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。現在、オミクロン株が猛威を振るっておりますが、我々にできることは何ら変わっておりません。マスク着用、手指消毒、3密回避、ワクチン接種です。

広報委員会委員長
熊木天児



今月の表紙

令和4年 仕事始め式にて

